

二酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルヲ
 ナ許サス
 三事故アリテ其住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ
 申請シ許可ヲ受ク可シ
 四擅ニ他ノ地方ニ旅行スルヲ許サス若シ已ムトナ
 得サル事故アル時ハ其事由ヲ警察所ニ具申シ許可
 ナ受ク可シ

監視ハ附加刑ノ一ニシテ第二十一條ニ明定セルカ如ク主刑ノ終リタ
 ル後チ仍ホ將來ヲ檢束スル爲メノ主義ニ出ツルヲ以テ主刑已ニ終
 ルト雖モ尙ホ未タ全ク拘束ヲ脱スルヲ得ス故ニ監視ニ付セラレタ
 ル者其期限間ハ本條舉示スル四個ノ條件ヲ遵守セサル可カラス
 第一ハ命令法ニシテ犯人其命令ヲ奉シ毎月二次必ス所轄ノ警察所
 ニ至リ其謹慎ナルヲ表シ監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ

敢テ違フヲ聽サス然レモ若シ疾病其他已ムトナ得サル事故アリ
 テ警察所ニ到ルヲ能ハサル場合ニ於テハ其事由ヲ届ケ出テ果シテ
 警察所ニ到ルヲ能ハサルモノト認ムルキハ出頭ヲ免スルモノトス
 第二ハ禁止法ニ係ル此項ニハ例外ナシ何トナレハ則チ酒宴遊興ノ
 席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルハ決シテ已ムヲ得サルモノニ
 アラサレハナリ
 第三及ヒ第四モ亦禁止法ニ係ル然レモ此二項ノ場合ニ於テハ例外
 アリ乃チ若シ已ムヲ得サルノ事故アルキハ轉居若クハ旅行ヲ許ス
 モノトス

第二十八條 監視ノ期限間ハ警察官吏時宜ニ因リ其
 家宅ニ臨檢スルヲアル可シ

監視ハ犯人ノ自宅ニ於テ之ヲ執行シ平居警察官ノ傍ニ在ラサル
 チ以テ毎月二次所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルヲ表スト雖モ其

餘ノ時日ニ於テハ犯人ノ舉動如何ヲ知ル能ハス或ハ其監視ヲ忽諾
ニスルノ恐レナキヲ保シ難シ故ニ時宜ニ因リ警察官吏其家宅ニ臨
檢スルヲアル可シ

第二十九條 警察所ニ於テ住居ヲ轉スルヲ許可シ
タル時ハ其事由ヲ轉住ノ地ノ警察所ニ通知シ第二十
三條ニ記載シタル書類ヲ遞送ス可シ

常人居ヲ移スハ敢テ官ノ許可ヲ要セスト雖ヒ監視ニ付セラレタル
者ハ之レト異ナリ必ラス官ノ許可ヲ受ケサルヲ得ス是レ第二十七
條第三項ニ規定スル所ナリ本條ハ乃チ犯人轉居ヲ請願シ官其請願
ヲ許可シタル場合ニ於テ施ス可キ手續ヲ定メタルモノナリ此ノ場
合ニ於テハ其轉居ヲ許可シタル事由ヲ轉居ノ地ノ警察所ニ通知シ
尙ホ其監視ノ起算滿期ヲ記載シタル文書及ヒ刑名宣告書ノ謄本ヲ
其警察所ニ遞送ス可キモノトス

第三十條 他ノ地方ニ旅行スルヲ許可シタル時ハ
其里程ヲ計リ先方ノ地ニ滞留スル時日ヲ算シ往復日
數ヲ限定シテ旅券ヲ付與ス可シ
犯人先方ノ地ニ到レハ其地ノ警察所ニ出テ旅券ヲ示
シ官吏ノ認印ヲ受ケ限定ノ日數内ニ歸來リ直チニ旅
券ヲ警察所ニ還納ス可シ

常人他ノ地方ニ旅行スルハ敢テ官ノ許可ヲ要セスト雖ヒ監視ニ付
セラレタル者ハ之レト異ナリ必ラス官ノ許可ヲ受ケサルヲ得ス是
レ第二十七條第四項ノ規定スル所ナリ本條ハ乃チ其旅行ヲ許可シ
タル場合ニ於テ施ス可キ方法ヲ定メタルモノニシテ分テ二項ト爲
シ第一項ハ警察所ニ於テ施ス可キ方法ヲ示シ其第二項ハ犯人ノ遵
守ス可キ條件ヲ示シタルモノトス

第三十一條 旅行中天災又ハ疾病等ニ因リ臨時淹滯

シタル時ハ事由ヲ其地ノ警察所ニ具申シ官吏ノ證書ヲ受ケ歸着ノ日旅券ニ添へ警察所ニ差出ス可シ

本條ハ前條第二項ノ規則ヲ寬ニシタルモノニシテ犯人他ノ地方ニ赴キタルルハ必ラス其限定ノ日數内ニ歸來ル可キヲナレモ若シ天災又ハ疾病等ニ因リ歸來ル不能ハサル場合ナリト云フ可カラス是レ誠ニ己ムヲ得サルニ出ツルモノナリ若シ是レ等ノ變ニ遭遇シ臨時淹滞シタルルハ其事由ヲ淹滞シタル地ノ警察所ニ具申シ官吏ノ證書ヲ受ケ歸着ノ日其證書ヲ旅券ニ添へテ警察所ニ差出ス可キモノトス

第三十二條 監視ニ付スル者住居ナク及ヒ引取人ナキ時ハ其期限間監獄中ノ別房ニ留置シ工業ヲ爲サシメ又ハ使役ニ供ス住居遠地ニ在テ歸著スル資力ナキ者亦同シ

本條ハ第二十二條ノ例外ナリ凡ソ監視ニ付ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ定メシメ其地ニ於テ之レヲ執行ス可キハ第二十二條ノ規定スル所ナリト雖モ犯人ノ中チ或ハ其住居ナク及ヒ引取人ナキ者ナシトセズ此ノ如キ者ハ其監視ノ期限間監獄中ノ別房ニ留置シ工業ヲ爲サシメ又ハ使役ニ供ス

又監視ニ付スル者住居アリト雖モ遠隔ノ地ニシテ歸着スルノ資力ナキ者モ亦監獄中ノ別房ニ留置シ工業ヲ爲サシメ又ハ使役ニ供ス
第三十三條 監獄中ノ別房ニ留置シタル者限内引取人ヲ得又ハ住居ノ地ニ歸著スル資力ヲ得タル時ハ其地ニ送致シテ殘期ノ監視ヲ執行セシム可シ

本條ハ前條ノ犯人期限内ニ引取人ヲ得又ハ歸着スルノ資力ヲ得タル場合ニ於テ施ス可キ方法ヲ定メタルモノニシテ別ニ釋明ヲ要セス

第三十四條 刑期限内再ヒ罪ヲ犯シ初犯再犯共ニ監視ニ付ス可キ時又ハ監視ノ期限内再ヒ罪ヲ犯シ更ニ監視ニ付ス可キ時ハ並ニ主刑滿限ノ後チ前後ノ期限ヲ通算シテ監視ヲ執行ス可シ

刑期限内ニ在テ再ヒ罪ヲ犯シ初犯再犯共ニ監視ニ付ス可キ時ハ先ツ其主刑ヲ執行シ主刑滿限ノ後チ初犯ノ刑ニ附加ス可キ監視ノ期限ト後犯ノ刑ニ附加ス可キ監視ノ期限ト之レヲ執行ス例ヘハ六年ノ輕懲役ニ處セラレタル者刑期限内ニ在テ再ヒ罪ヲ犯シ更ニ八年ノ輕懲役ニ處セラレタルカ如キ先ツ前後ノ主刑十四年ノ懲役ヲ執行シタル後チ前後ノ監視ヲ通算シテ四年間之レヲ執行スルノ類ナリ監視ノ期限ヲ定ムルニハ各本刑ノ短期三分之一ニ等シキ時間ヲ以テスルコトハ第二十一條ノ註釋ニ詳ナリ
其初犯ノ主刑已ニ畢リ監視ノ期限内ニ在テ再ヒ罪ヲ犯シ更ニ監視

ニ付ス可キ刑ニ處セラレタルモ亦其再犯ノ主刑ヲ執行シタル後チ初犯ノ監視期限ト再犯ノ監視期限トヲ通算シテ執行ス可キモトス

第三十五條 罰金ヲ禁錮ニ換ヘタル者監視ニ付ス可キ時ハ其禁錮ノ日數ヲ監視ノ期限ニ算入ス可シ

罰金ノ刑ニ處セラレタル者其限内納完セサルハ刑法第二十七條ニ依リ一圓ヲ一日ニ折算シテ之レヲ輕禁錮ニ換フルモノトス此ノ場合ニ於テ監視ニ付ス可キ者ハ其換フル所ノ禁錮ノ日數ヲ以テ監視ノ期限内ニ算入ス例ヘハ一旦貼用シタル各種ノ印紙ヲ再ヒ貼用シタル科ニ因リ刑法第九十九條ニ照シ二十圓ノ罰金ニ處セラレタル者限内納完セサルヲ以テ之レヲ二十日ノ輕禁錮ニ換ヘタルカ如キ此ノ條ノ罪ヲ犯シタル者ニシテ監視ニ付ス可キモノナレハ刑法第二百一一條ニ因リ六ヶ月ノ監視ニ付シ即チ禁錮ノ執行二十日ヲ

畢リタル后チ餘ル二百六十日間監視ニ付スルノ類是レナリ

第三十六條 監視ニ付セラレタル者其規則ヲ謹守シ
悔改ノ狀アル時ハ警察官ヨリ其事實ヲ上申シ内務司
法兩卿ノ命ヲ受ケテ假ニ監視ヲ免スルヲ得

監視ハ身体ヲ拘束スルノ刑ニシテ犯人ノ行狀ヲ監視スル者ナリ身
体ヲ拘束スル刑ノ中チ主刑ニ在テハ假出獄免幽閉ノ特典アリ夫勸
懲ノ主義其効ヲ奏スルニ至テハ主刑ト雖モ尙ホ且ツ斯ノ如シ況ン
ヤ附加刑ニ於テヲヤ亦タ宜ク此恩典ヲ設ケサル可カラサルヤ明カ
ナリ故ニ刑法第四十一條ニ監視ニ付セラレタル者其情狀ニ因リ行
政ノ處分ヲ以テ假ニ免スルヲ得ルト云ヘリ而シテ其所謂情狀ト
ハ本條ニ示スカ如ク能ク監視ノ規則ヲ謹守シ悔改ノ狀アルヲ云フ
此ノ場合ニ於テハ警察官ヨリ其事實ヲ上申シ内務司法兩卿ノ命令
ヲ受ケテ假リニ監視ヲ免スルモノトス

第三十七條 假ニ監視ヲ免セラレタル者住居ヲ轉移
スル時ハ第二十七條第三及ヒ第二十九條ノ例ニ從フ
可シ

前條ノ情狀アルニ因リ監視ヲ免セラレタリト雖モ本ト假免ニ係ル
ヲ以テ住居ヲ轉移スルハ第二十七條第三及ヒ第二十九條ノ例ニ
從ハサルヲ得サルモノトス

第三章 假出獄及ヒ特別監視 凡十條

假出獄ハ法律ノ恩惠ニシテ重罪(流刑ヲ除ク)輕罪ノ刑ニ處セラレタル
者并ニ此ノ恩典ニ與カルヲ得事ハ刑法第一編第二章第六節ニ在
リ然レモ其方法細目ニ至テハ刑法ハ其規定ヲ他則ニ讓レリ乃チ本
章ニ於テ之レヲ詳カニス

特別監視ハ假出獄ヲ許サレタル者ニ適用スル檢束法ニシテ刑法第
五十五條ニ規定セリ此ノ法普通ノ監視ト異ニシテ本刑(即チ主刑)期限

内ニ執行スルモノトス其詳細ハ以下ノ數條ニ就テ見ルヘシ

第三十八條 假出獄ヲ許ス可キ者アル時ハ典獄ヨリ其犯人ノ行狀及ヒ刑名入獄ノ年月ヲ記載シ假ニ出獄ヲ許サレシトテ内務司法兩卿ニ上申シテ許可ヲ受ク可シ

本條ハ假出獄ヲ許ス可キ者アルキ施行スルノ手續キテ定メタルモノトス

刑法第五十三條ニ重罪輕罪ノ刑ニ處セラレタル者獄則ヲ謹守シ後改ノ狀アルキハ其刑期四分ノ三ヲ經過スルノ後ヲ行政ノ處分ヲ以テ假リニ出獄ヲ許スヲ得無期徒刑ノ囚ハ十五年ヲ經過スルノ後チ亦同シトアリ故ニ重輕罪ノ刑ニ處セラレタル者能ク獄則ヲ謹守シ後改ノ情狀顯然タルキハ以上ノ年限ヲ經過シタルノ後チ典獄ヨリ本條ノ手續キテ以テ假出獄ヲ許サレシトテ上申シテ許可ヲ受ク

可キモノトス

犯人ノ行狀假出獄ヲ許スニ足ルト認定ス可キ者其數法律ニ豫定シ難シ蓋シ一美事アレハ之レヲ許ス可キモノアリ又然ラサル者アラシ監獄則ヲ按スルニ第九十六條ニ已決囚獄則ヲ謹守シ且ツ改悛ノ行爲著シキ者ト典獄ニ於テ確認スルキハ之レヲ賞譽ス可シ又第九十七條ニ賞譽セシ者ニハ其賞譽セシ毎ニ之ヲ表スル爲メ獄衣ノ左袖ノ臂間ニ方二寸曲ノ淺葱色ノ布ヲ縫着スヘシトアリ而シテ其第九ノ表面ニ方二寸尺ノ淺葱色ノ布ヲ縫着スヘシトアリ而シテ其第九十八條ニ賞表ハ假出獄免幽閉又ハ特赦ヲ具狀スルノ考據ト爲ヌヲ得トアリ是ニ由テ之レヲ觀レハ賞表ヲ得ルニ至ルノ行爲アル者ハ假出獄ヲ得ルノ基ヒト爲ルモノトス

第三十九條 假出獄ヲ許シタル時ハ典獄ヨリ其證票ヲ犯人ニ下付ス可シ

第四十條 假出獄證票ニハ左ノ條件ヲ記載ス可シ

一本人ノ屬籍氏名年齢住所罪名刑名及ヒ處刑ノ年月日

二殘期何年何月何日間假出獄ヲ許ス事

三假出獄中ハ特別監視ニ付ス可キ事

四假出獄中更ニ重輕罪ヲ犯レタル時ハ直チニ出獄ヲ

停止シ出獄中ノ日數ヲ刑期ニ算入セサル事

前二條ハ別ニ釋明スルヲ要セス

第四十一條 重罪ノ刑ニ處セラレタル者假出獄中自

ラ財産ヲ治メ若クハ職業ヲ營マントスル時ハ警察所

ニ申請シ許可ヲ受ク可シ

重罪ノ刑ニ處セラレタル者ハ其主刑ノ終ルマテ自ラ財産ヲ治ムルヲ

禁ス是レ刑法第三十五條ノ明示スル所ナリ然レモ假出獄ヲ許サ

レタル者ハ行政ノ處分ヲ以テ治産ノ禁ノ幾分ヲ免スルヲ得是レ

刑法第五十五條ノ明示スル所ナリ故ニ重罪已決ノ囚ニシテ假出獄

ヲ許サレタル者自ラ財産ヲ治メント欲スルモハ警察所ニ申請シテ

許可ヲ受ク可シ其職業ヲ營マント欲スル者モ亦同シ

第四十二條 假出獄ヲ許ス可キ者ハ豫メ其住所ヲ定メ

シメ出獄ノ日典獄ヨリ其証票ノ謄本ヲ添ヘ犯人ヲ其住

居ノ地ノ警察所ニ護送シ特別監視ヲ執行セシム可シ

本條ハ第二十二條ノ手續キト大畧相ヒ似タルモノナリ

特別監視ハ假出獄ヲ許サレタル時ヨリ主刑滿限ニ至ルマテノ間執

行ス可キモノニシテ普通監視ト同シカラス故ニ假出獄ヲ許サレタ

ル者ニシテ本刑監視ニ付ス可キモノナルモハ特別監視ノ終リタル

後子更ニ普通ノ監視ニ付スルモノトス

第四十三條 特別監視ニ付スル者ハ第二十三條第二

十四條第二十五條第二十六條第二十九條第三十一條

ノ例ヲ通用ス

特別監視ハ普通ノ監視ト其性質ヲ異ニスト雖モ執行方法ニ至テハ大同小異ナリ故ニ大概普通監視ノ例ヲ適用スルナリ

第四十四條 特別監視ニ付セラレタル者ハ其期限間左ノ條件ヲ遵守ス可シ

- 一 毎週間一度所轄ノ警察所ニ到リ其謹慎ナルヲ表シ監視ノ票ヲ出シ官吏ノ認印ヲ受ク可シ但シ疾病又ハ已ムコトヲ得サル事故アリテ警察所ニ到ルコト能ハサル時ハ其事由ヲ届出ツ可シ
- 二 酒宴遊興ノ席ニ會シ又ハ群集ノ場所ニ參會スルコトヲ許サス
- 三 事故アリテ住居ヲ轉移セントスル時ハ警察所ニ申請シ許可ヲ受ク可シ但シ他ノ府縣ニ轉移スルコトヲ許

サス

四往復一日程ヲ過クル地ニ旅行スルコトヲ許サス

特別監視ニ付セラレタル者其期限間遵守スヘキ條件モ亦四個アリ其中チ唯々第二ヲ除クノ外普通監視ト異ナレリトス

第一普通監視ニ在テハ毎月二度所轄ノ警察所ニ出頭スルヲ以テ例ト爲ス特別監視ハ每週一度警察所ニ到ラサルヲ得ス

第三普通監視ニ在テハ其居ヲ移サントスルキハ何レノ地方ニ移スモ別ニ制限ナシ然ルニ特別監視ハ他ノ府縣ニ轉移スルコトヲ得ス

第四普通監視ニ在テハ他ノ地方ニ旅行スルニ往復日數一日ヲ過クルモ亦之レヲ許ス然ルニ特別監視ハ一日程ヲ過クル地方ニ旅行スルコトヲ許サス

右ノ如キ別アル所以ノモノハ他ナシ一ハ主刑満期ノ後チニシテ一ハ主刑ノ期限内ニアレハナリ

第四十五條 特別監視ノ期限間ハ警察官吏時宜ニ因リ其家宅ニ臨檢スルコトアル可シ

本條ハ第二十八條ノ主義ニ同シ

第四十六條 假出獄ヲ許サレタル者刑期滿限ノ日ニ至レハ假出獄證票ヲ警察所ニ還納シ警察所ヨリ證票ヲ出シタル典獄ニ遞送ス可シ

主刑滿限ノ後監視ニ付ス可キ犯人ナル時ハ警察所ニ於テ第二章ノ例ニ從テ處分ス可シ

假出獄ハ本刑ノ殘期間之レヲ許スモノニシテ本刑期限已ニ滿ツレハ其時ヨリ以後ハ假出獄ニアラスシテ眞ノ出獄ナリ故ニ刑期滿限ノ日ニ至レハ其証票ヲ還納セシムルナリ而シテ此時ニ至レハ特別監視モ亦隨テ消滅スルモノトス
主刑已ニ消滅スルモ仍ホ監視ニ付ス可キ犯人ナルトハ警察所ニ於

テ第二章ノ例ニ從ヒ更ニ監視ヲ執行スルモノトス

第四十七條 假出獄ヲ許ス可キ者住所ナク及ヒ引取人ナキ時ハ第三十二條ノ例ニ從ヒ監獄中別房ニ留置ス可シ

監獄則第六十一條第一項ニ假出獄免幽閉ヲ受ケタル徒刑流刑ノ者其他ニ居住スヘキ家ナキハ屋舎ヲ貸與スヘシトアリ故ニ徒刑ノ囚ニシテ假出獄ヲ許サレタル者ハ監獄中ノ別房ニ留置スルノ限リニアラサルモノトス

第四章 刑事裁判費用 凡六條

刑法第四十五條ニ刑事ノ裁判費用ハ其全部又ハ幾分ヲ犯人ニ科ス但其費用ノ額ハ別ニ規則ヲ以テ之レヲ定ムトアリ是レ本章ノ起ル所以ニシテ以下ノ數條ニ於テ其額ヲ定メ及ヒ之レヲ徵收給與スルノ方法ヲ詳カニセリ

第四十八條 豫審公判ニ付キ呼出シタル證人醫師鑑定人通辨人翻譯人ニ給與ス可キ日當旅費止宿料及ヒ
第五十一條第五十二條ニ記載シタル者ヲ以テ刑事ノ裁判費用ト爲ス

本條ハ刑事ノ裁判費用ト稱ス可キ者ヲ定メタルモノニシテ法文明瞭敢テ之レカ説明ヲ要セス

第四十九條 日當旅費及ヒ止宿料ノ金額左ノ如シ

日當五拾錢

旅費一里拾錢

止宿料一宿貳拾五錢

住居三里以外ノ地ニ在ル者ハ往復旅費ヲ給シ及ヒ呼出ノ地ニ滯在中ハ日當並ニ止宿料ヲ給ス其三里未滿ノ地ニ在ル者ハ旅費止宿料ヲ給セス

本條ハ日當旅費止宿料ノ額ヲ定メ及ヒ之レヲ給與スル方法ヲ定メタルモノトス

末項前條ニ記シタル証人以下ノ者ノ住居其呼出シタル裁判所ヲ距ル一三里以外ニ及フキハ往復旅費ヲ給ス其呼出ノ地ニ滯在スルハ日當并ニ止宿料ヲ給スト雖モ若シ其住居三里未滿ナルキハ唯タ日當ノミヲ給シ旅費止宿料ハ之レヲ給セス

第五十條 證人ノ日當旅費及ヒ止宿料ハ本人ノ請求アルニ非サレハ之ヲ給與セス

本條ニ証人云々トアリテ他ヲ云ハサルヲ見レハ獨リ証人ノミニ限リ請求アルニアラサレハ給與セサルモノト知ル可シ

第五十一條 證人日稼ヲ以テ生業トスル者治罪法第百九十條ニ從ヒ償金ヲ要求スル時ハ旅費日當ノ外若干ノ償金ヲ給スルコトアル可シ

治罪法第九十條第二項ニ若シ日稼ヲ以テ生業トスル者ナル時ハ
旅費日當ノ外日稼高ニ等シキ償金ヲ要ムルヲ得トアリ故ニ其日
稼高ニ等シキ償金モ亦之レヲ裁判費用ト爲シ本人ノ請求アルハ
旅費日當ト共ニ之レヲ給與スルコトアル可キモノトス

**第五十二條 解剖舍密等ノ費用及ヒ數多ノ時間ヲ要
スル翻譯料ノ類ハ日當ノ外別ニ之ヲ給與ス可シ**

本條ノ場合モ亦之レヲ裁判費用ト爲シ日當ノ外別ニ之レヲ給與ス
而シテ本條ニハ之レヲ給與ス可シトアリ前條ニハ給與スルコトアル
ヘシトアリ是レ前條ノ証人トハ異ナルカ故ナリ

**第五十三條 裁判費用ノ宣告ヲ受ケ未タ之ヲ納メサ
ル前ニ於テ犯人身死スル時ハ其相續人ヨリ之レヲ徵
收ス**

本則ノ草案第五十八條ヲ案スルニ裁判費用ノ宣告ヲ受ケ未タ之レ

ヲ納メサル前ニ於テ犯人身死スル時ハ之レヲ徵收セストアリ然ル
ニ今本條ノ定ムル所ニ據レハ草案ト相ヒ反シ改メテ其相續人ヨリ
徵收スト爲シタルハ何ソヤ曰ク裁判費用ハ民事上ノ賠償ニシテ刑罰
ニアラス刑罰ハ犯人ノ一身ニ止マリ子孫ニ及ハサルモノナレハ犯
人ノ死ト共ニ消滅スルヲ以テ罰金科料ノ如キハ之レヲ徵收セスト
雖ヒ民事上ノ責任ハ一身ニ止マラス子々孫々ニ至ルマテ之レヲ負
擔セサルヲ得ス故ニ未タ納完セサル前ニ於テ犯人身死スル時ハ其
相續人ヨリ徵收スルナリ

第五章 賠償處分 凡十條

賠償處分トハ犯罪ヨリ生スル損害ノ賠償及ヒ贓物ノ還給ヲ爲サシ
ムルニ付キ施ス可キ處分方ヲ云フ

**第五十四條 贓物犯人ノ手ニ在ル時ハ直チニ被害者
ニ還付スト雖モ若シ輾轉シテ他人ノ手ニ在ル時ハ被**

活罪法第九十條第二項ニ若シ日稼ヲ以テ生業トスル者ナル時ハ
旅費日當ノ外日稼高ニ等シキ償金ヲ要ムルヲ得トアリ故ニ其日
稼高ニ等シキ償金モ亦之レヲ裁判費用ト爲シ本人ノ請求アルキハ
旅費日當ト共ニ之レヲ給與スルコトアル可キモノトス

第五十二條 解剖舎密等ノ費用及ヒ數多ノ時間ヲ要
スル翻譯料ノ類ハ日當ノ外別ニ之ヲ給與ス可シ

本條ノ場合モ亦之レヲ裁判費用ト爲シ日當ノ外別ニ之レヲ給與ス
面シテ本條ニハ之レヲ給與ス可シトアリ前條ニハ給與スルコトアル
ヘシトアリ是レ前條ノ証人トハ異ナルカ故ナリ

第五十三條 裁判費用ノ宣告ヲ受ケ未タ之ヲ納メサ
ル前ニ於テ犯人身死スル時ハ其相續人ヨリ之レヲ徵
收ス

本則ノ草案第五十八條ヲ案スルニ裁判費用ノ宣告ヲ受ケ未タ之レ

ヲ納メサル前ニ於テ犯人身死スルキハ之レヲ徵收セストアリ然ル
ニ今本條ノ定ムル所ニ據レハ草案ト相ヒ反シ改メテ其相續人ヨリ
徵收スト爲シタルハ何ソヤ曰ク裁判費用ハ民事上ノ賠償ニシテ刑罰
ニアラス刑罰ハ犯人ノ一身ニ止マリ子孫ニ及ハサルモノナレハ犯
人ノ死ト共ニ消滅スルヲ以テ罰金科料ノ如キハ之レヲ徵收セスト
雖ニ民事上ノ責任ハ一身ニ止マラス子々孫々ニ至ルマテ之レヲ負
擔セサルヲ得ス故ニ未タ納完セサル前ニ於テ犯人身死スルキハ其
相續人ヨリ徵收スルナリ

第五章 賠償處分 凡十條

賠償處分トハ犯罪ヨリ生スル損害ノ賠償及ヒ贓物ノ還給ヲ爲サシ
ムルニ付キ施ス可キ處分方ヲ云フ

第五十四條 贓物犯人ノ手ニ在ル時ハ直チニ被害者
ニ還付スト雖モ若シ輾轉シテ他人ノ手ニ在ル時ハ被

害者ノ請求ニ因リ還給セシムル者トス

夫レ贓物ノ返還ハ民事上ニ属スル私訴ナルヲ以テ被害者ノ請求アルニアラサレハ其返還ヲ命スルヲ得ス若シ其請求ナキモ尙ホ返還ヲ命スル者トズルキハ裁判所ハ訴ヲ受ケサル事件ニ付キ裁判ヲ爲スモノニシテ一般ノ原則ニ背戻ス故ニ贓物輾轉シテ他人之レカ占有ヲ爲スキハ被害者ハ其占有者ニ對シテ返還ヲ請求セサル可ラス然レモ若シ贓物犯人ノ手ニ現存スルキハ假令ヒ被害者ノ請求ナシト雖モ直チニ之レヲ返還セシム是レ其例外ニシテ刑法第四十八條ノ末文ニ若シ贓物犯人ノ手ニ在ルキハ請求ナシト雖モ直チニ之レヲ被害者ニ還付ストアル者はレナリ蓋シ法律ノ斯ク例外ヲ設ケシ所以モノハ其罪ヲ惡ムニ起因スルモノナリ

第五十五條 贓物輾轉シテ他人ノ手ニ在ル時公商ニ由リ買取シタル物品ハ其公商若クハ被害者ヨリ買取

者ニ原價ヲ償ハサレハ直チニ還給セシムルヲ得ス
若シ公商ニ由ラスシテ買取シタル物品ハ其還給ヲ拒ムヲ得ス但其買取者ハ賣者ニ對シ轉償ヲ求ムルヲ得

本條ハ贓物輾轉シテ他人ノ手ニ在ル時之レヲ被害者ニ返還セシムル法ヲ定メタルモノニシテ之レヲ分チテ二項ト爲シ第一項ハ他人其占有ヲ爲シタルハ公商ニ由リ買取シタル場合ニシテ其第二項ハ則チ是レニ反スル場合ナリ
第一項公商ニ由リ買取シタル物品ハ贓ニ係ルト雖モ直チニ之レヲ返還セシムルヲ得ス然ル所以ノモノハ他ナシ凡ソ公商ニ由リ物品ヲ買取スルニ先ツ一々其出所ヲ問ヒ正當ノ物品ナルカ將タ不正品ニ係ルカヲ究メ果シテ正當ナルキ初メテ之レヲ購求ス可シトセハ可ハ則チ可ナリト雖モ實際上到底行ハル可キニ非ラス若シ強テ

之レチ行ハントセハ遂ニ賣買ノ途閉塞スルニ至ラン夫レ吾人日常
 公商ノ手ニ就テ物品ヲ購求スルニ當テヤ絶テ其出所ヲ問究スルモ
 ノナシ蓋シ其意タル公商ノ手ニ在ル物ハ都テ正品ナリト思惟スル
 ニ因レハナリ然ルニ今其出所ヲ問究セサルヲ以テ買取者ニ過失ア
 リトセハ吾人ハ一小品ヲ買フニモ安堵スルヲ能ハサルヘシ是ヲ以
 テ其買取シタル物品若シ贓ニ係ルモ公商ノ手ニ由リタルキハ其公
 商若シハ被害者即チ眞ノ所有者ヨリ買取者ニ對シテ原價ヲ償ハサ
 レハ還給セシムルヲ得サルモノトス
 第二項其公商ニ由ラスニテ買取シタル物品ニ係ルキハ買取者ニ於
 テ過失ナシト云フ可ラス故ニ其還給ヲ拒ムヲ得サルモノトス然
 レニ其買取者ハ賣者ニ對シテ轉償ヲ求ムルヲ得若シ賣者モ亦他
 人ヨリ買取シタルキハ其賣者ニ對シテ轉償ヲ求ムルヲ得斯ノ如
 ク挨次ニ賠償シ犯人ニ至テ止ムモノトス

第五十六條

贓物ヲ受ケ又ハ典物トシテ受取タル者
 其贓物現在スル時ハ還給ヲ拒ムヲ得ス但典物トシ
 テ受取タル者ハ典主ニ對シ轉償ヲ求ムルヲ得

贓物ヲ受ケタルハ之レヲ贖ヒ受クルヲ云フ現在スルトハ其受取リ
 タル者及ヒ典物トシテ受取リタル者ノ手ニ存在スルヲ云フ凡ソ贓
 物ヲ受ケタル者其贓物現在スルキハ被害者ノ請求ヲ拒ムヲ得ス
 其典物トシテ受取リタル者モ亦然リ然レニ其典物トシテ受取リタ
 ル者ハ典主乃チ贖置キ人ニ對シテ轉償ヲ求ムルヲ得

第五十七條

贓物交換シテ現在スル時ハ公商ニ由ル
 ト否トヲ區別シ第五十五條ノ例ニ從テ處分ス可シ

交換ハ賣買ト同シカラスト雖モ等シク要償ノモノニシテ已レノ物
 品ヲ以テ人ニ與ヘ而シテ其代リトシ他人ノ物品ヲ得ル者ナレハ其
 公商ニ由ルト否トヲ區別シ若シ公商ニ由リタルキハ第五十五條第

一項ニ依リ公商若クハ被害者ヨリ原物或ハ原物ノ價ヲ償ハサレハ直チニ還給セシムルヲ得ス

若シ其交換公商ニ由ラサルトハ第五十五條第二項ニ依リ其還給ヲ拒ムヲ得サルモノトス但シ其者ハ他ノ一方ノ者ニ對シテ轉價ヲ求ムルヲ得ルナリ其理由ハ並ニ第五十五條ノ理由ニ同シ

第五十八條 贓物已ニ費用シタル時又ハ識別ス可カラサル時又ハ其所在ノ知レサル時ハ損害ノ賠償ヲ請求スルヲ得

余曩キニ治罪法ヲ註スルニ際シ其第二條ノ下ニ於テ贓物現存セサルハ損害ノ賠償ヲ請求スルヲ得ヘキハ疑ヲ容レサル旨ヲ述ヘタリシカ今本條ニ規定スル所ヲ見レハ當時余カ說ノ臆測ニ出テサルヲ明スニ足ル可シ然レハ其贓物ノ還給變シテ損害ノ賠償トナルハ事理ノ當サニ然ル可キ所ニシテ固ヨリ智者ヲ待テ而シテ後チニ

知ルニ非ラサレハ余ノ敢テ識見アリト云フニ非ラス唯タ當時ニ在テ未ダ法律ノ制定ヲ見サルニ因リ幼學ノ輩或ハ覺テサルアラソトテ恐レ聊カ婆心ヲ述ヘタルノミ

本條示ス所ノ三個ノ場合中已ニ費用シタルトハ其所在ノ知レサルト相ヒ似タリト雖モ亦其區別ナキニ非ラス費用トハ即チ己レテ利スルカ爲メ賣却若シハ交換等ヲナシ其贓物ノ所在ヲ失フタルヲ云フナリ何レノ場合ト雖モ贓物ノ還給變シテ損害ノ賠償ヲ要求スルヲ得ルナリ

第五十九條 人ノ名譽若クハ殺傷ニ關シタル損害其他犯罪ノ爲メ現ニ生シタル損害ハ其賠償ヲ請求スルヲ得但失火ハ此限ニ在ラス

人ノ名譽ニ關スル損害ノ賠償ヲ請求スルヲ得ルハ我が國ノ新創ニシテ往年橫濱代人ヨリ日報社ニ係ル詞訟ノ如キハ蓋シ其嚆矢

ナル歟（但此ノ詞訟ハ犯罪ヨリ生シタ）而シテ斯ノ如ク要償スルヲ得ルノ理由ハ治罪法第二條ノ註釋ニ於テ「ホアンナー」氏ノ説ヲ引テ詳カニ之レヲ述ヘタルヲ以テ此ニ贅セス

殺傷ニ關シタル損害ノ賠償モ亦從前ニ在テハ過失殺傷ヲ除クノ外絶テ聞カザリシ所ナリ然レモ理論上ヨリ之レヲ看レハ何人ト雖モ人ニ損害ヲ與ヘタルキハ之レヲ償ハサルヲ得ス是レ亦治罪法第二條ノ註釋ニ於テ之レヲ説明シタル所ニシテ獨リ殺傷ニ關スル損害ノミナラス都テ犯罪ノ爲メ現ニ生シタル損害モ亦之ヲ償ハサルヲ得ス故ニ苟モ損害ヲ被ムリタルモノハ皆其賠償ヲ請求スルヲ得ルナリ然レモ所謂損害ノ賠償ト稱スルモノハ獨リ直接ノ損害ノミニシテ間接ノ損害ヲ云フニアラサルモノトス本條ノ但書ニ失火ハ此限ニ在ラスト云ヘリ蓋キニ治罪法第二條ヲ註スルニ際シ諸多ノ犯罪中獨リ公訟アリテ私訴ナキモノアリト述ヘ其例トシテ内亂外

患其他二三ノ犯罪ヲ獨ケ失火モ亦其中ニ列シタリシガ該註釋ニハ唯タ其例トシテ之レヲ揭ケタルニ過キサレハ敢テ盡サ、ル所ナシト云フヲ得ス因テ今聊カ之レヲ説明セントス抑モ内亂外患等ノ如キハ別ニ被害者ナキヲ以テ其犯罪ノ性質上私訴ヲ生セサル者ナレバ失火ノ如キハ現ニ被害者アルヲ以テ其性質ニ因テ然ルニアラス唯タ法律之レヲ禁シタルノミ故ニ犯罪ノ性質ヲ論スルニ至テハ失火モ亦私訴ヲ生スルノ犯罪ナリト謂ハサルヲ得ス然ルニ法律ノ之レヲ禁シタルハ如何ナル理由ニ基キタル歟其理由ハ僅カニ左ノ二點ニ過キサルノミ

第一、失火人ハ不注意ノ罪アリト雖モ其失火ノ爲メ自己ニ於テモ亦大ナル損害ヲ招キタル者ナレハ他人ニ對シ賠償ヲナスキハ更ニ困難ヲ重テ之カ爲メ零落ノ途ニ路頭ニ彷徨スルニ至ル可キカ故ナリ

第二、一戸火ヲ失シテ爲メニ數十戸ヲ延焼スルノ間、之レアリ此ノ

場合ニ於テ數十戸ノ被害者舉テ賠償ヲ求ムルモ其得ル所ノ額ハ誠ニ些少ニ過キサレハ絶テ訴訟ヲ爲スノ利益ナキカ故ナリ

第六十條 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ其犯罪ヲ審判スル刑事裁判所ニ請求スルコトヲ得若シ其審判已ニ終リタル後ハ民事裁判所ニアラサレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス

治罪法第四條ニ私訴ハ其金額ノ多寡ニ拘ハラヌ公訴ニ附帶ノ刑事裁判所ニ之レヲ爲スコトヲ得ルトアリ又刑法第四十八條ニ裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償ハ被害者ノ請求ニ因リ刑事裁判所ニ於テ之レヲ審判スルコトヲ得トアリ其理由ハ同條ノ註釋ニ於テ説明シタルカ如ク犯罪ヲ審判スル刑事裁判所ニ於テ私訴ノ審判ヲ爲スルハ其證據物ヲ集收スルニ付キ便利ナルカ故ナリ而シテ刑法第四十八條ハ裁判官ニ示スノ法文ニシテ治罪法第四條及ヒ本條ハ人民ニ示ス

ノ法文ナリト謂フモ可ナル可シ

右ノ如ク刑事裁判所ニ私訴ヲ爲スコトヲ得ルハ本ト公訴ニ附帶スルカ爲メナリ若シ公訴ノ審判已ニ終リタル後チニ在テハ之レニ附帶スルコト能ハス故ニ此ノ場合ニ於テハ私訴ヲ爲サントスルモ民事裁判所ニアラサレハ之レヲ請求スルコトヲ得サルモノトス

第六十一條 刑事裁判所ニ於テ贓物ノ還給損害ノ賠償ヲ請求スル者ハ通常ノ文書又ハ言語ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得其民事裁判所ニ請求スル者ハ民事訴訟ノ程式ニ從フ可シ

公訴ニ附帶シテ刑事裁判所ニ爲ス所ノ私訴ハ民事裁判所ノ訴訟ト異ナリ治罪法第四條ニ示スカ如ク其金額ノ多寡ニ拘ハラヌ之レヲ爲スコトヲ得此ノ如ク通常民事ノ訴訟ト異ナルヲ以テ之レヲ爲スノ手續キニ至テモ亦之レト異ナリ通常ノ文書又ハ言語ヲ以テ之レヲ

場合ニ於テ數十戸ノ被害者舉テ賠償ヲ求ムルモ其得ル所ノ額ハ誠ニ些少ニ過キサレハ絶テ訴訟ヲ爲スノ利益ナキカ故ナリ

第六十條 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ其犯罪ヲ審判スル刑事裁判所ニ請求スルヲ得若シ其審判已ニ終リタル後ハ民事裁判所ニアラサレハ之ヲ請求スルヲ得ス

治罪法第四條ニ私訴ハ其金額ノ多寡ニ拘ハラズ公訴ニ附帶ノ刑事裁判所ニ之レヲ爲スヲ得ルトアリ又刑法第四十八條ニ裁判費用贓物ノ還給損害ノ賠償ハ被害者ノ請求ニ因リ刑事裁判所ニ於テ之レヲ審判スルヲ得トアリ其理由ハ同條ノ註釋ニ於テ説明シタルカ如ク犯罪ヲ審判スル刑事裁判所ニ於テ私訴ノ審判ヲ爲スルハ其證據物ヲ集收スルニ付キ便利ナルカ故ナリ而シテ刑法第四十八條ハ裁判官ニ示スノ法文ニシテ治罪法第四條及ヒ本條ハ人民ニ示ス

ノ法文ナリト謂フモ可ナル可シ

右ノ如ク刑事裁判所ニ私訴ヲ爲スヲ得ルハ本ト公訴ニ附帶スルカ爲メナリ若シ公訴ノ審判已ニ終リタル後チニ在テハ之レニ附帶スルヲ能ハス故ニ此ノ場合ニ於テハ私訴ヲ爲サントスルモ民事裁判所ニアラサレハ之レヲ請求スルヲ得サルモノトス

第六十一條 刑事裁判所ニ於テ贓物ノ還給損害ノ賠償ヲ請求スル者ハ通常ノ文書又ハ言語ヲ以テ之ヲ爲スヲ得其民事裁判所ニ請求スル者ハ民事訴訟ノ程式ニ從フ可シ

公訴ニ附帶シテ刑事裁判所ニ爲ス所ノ私訴ハ民事裁判所ノ訴訟ト異ナリ治罪法第四條ニ示スカ如ク其金額ノ多寡ニ拘ハラズ之レヲ爲スヲ得此ノ如ク通常民事ノ訴訟ト異ナルヲ以テ之レヲ爲スノ手續キニ至テモ亦之レト異ナリ通常ノ文書又ハ言語ヲ以テ之レヲ

爲スヲテ許ス其民事裁判所ニ請求ヲ爲スモノハ民事訴訟ノ程式ニ從ハサルヲ得ス蓋シ其民事裁判所ニ爲ス所ノ私訴ハ公訴ニ附帶スルモノニアラスシテ純然タル民事上ノ詞訟ナレハ假令ヒ犯罪ニ因リ生シタル事柄ニ係ルト雖ヒ之レカ爲メ民事上一定ノ法式ヲ破ルヘキニアラサレハナリ

第六十二條 贓物ノ還給損害ノ賠償ハ本犯身死スル
キハ其相續人ニ對シ之ヲ要求スルヲ得

本則ノ草案第六十七條ヲ案スルニ損害ノ賠償ハ本犯ニ止マルト雖ヒ若シ犯人身死シ及ヒ失踪シテ遺物アルキハ被害者ヨリ其相續人ニ對シ民事裁判所ニ請求スルヲ得但遺物ノ外ハ相續人ニ對シ賠償セシムルヲ得ストアリ然ルニ本條改メテ遺物ナシト雖ヒ其相續人ニ對シ請求スルヲ得ルモノト爲シタルハ何ソヤ是レ他ナシ損害ノ賠償ハ屢々説明シタルカ如ク全ク民事上ノ義務ナレハ本犯

身死スルキハ其相續人其責ヲ負擔セサルヲ得サルハ事理ノ當サニ然ル可キ所ニシテ何ソ遺物ノ有無ニ因リテ其負擔スルト否トチ分ツノ理アラシヤ夫ノ罰金科料ノ如キ純然タル刑罰ナリト雖ヒ其刑ノ言渡確定シタル以後ニ在テハ刑罰ノ質ヲ變シテ政府ニ對スルノ負債即チ民事上ノ義務トナルヲ以テ本犯ノ一身ニ止マラス尙ホ其相續人ヨリ追徴ス可シト云フノ説アリ況ンヤ初メヨリ民事上ノ質ナル損害ノ賠償ニ於テチヤ故ニ本條改メテ本犯身死スルキハ(遺物ノ有無ニ拘ラ)其相續人ニ對シ之ヲ要求スルヲ得ルモノトナセリ

本條ノ場合ニ於テ其相續人ニ對シ贓物ノ返還損害ノ賠償ヲ要求スルハ民事裁判所ニアラサレハ能ハサルモノトス

第六十三條 贓物ノ還給損害ノ賠償ノ宣告ヲ受ケタル者還給賠償セサル時ハ被害者ヨリ更ニ民事裁判所ニ身代限ノ處分ヲ請求スルヲ得

本條ハ私訴ノ結局ヲ示シタルモノニシテ別ニ釋明ヲ要スル所ナシ
故ニ贅セス

刑法附則註釋大尾

二百七十九丁	九行	理由ナノ下ケテ脱ス
二百四十八丁	十一行	アリハナリノ誤
二百四十四丁	十一行	法ニハ法ヲノ誤
二百三十六丁	九行	幼者ハ幼者トノ誤
二百二十二丁	十一行	概ハ衆ノ誤
百九十六丁	十一行	九ケ月トノ下一年ノ二字ヲ脱ス
百九十三丁	五行	重犯ハ重罪ノ誤
百九十三丁	五行	九ケ月トノ下一年ノ二字ヲ脱ス
百八十七丁	二行	終ルハ經ルノ誤
百六十一丁	四行	以テ再犯ハ再犯ヲ以テノ誤
百五十四丁	一行	許サハルハ許サルノ誤
百三十七丁	九行	首ハ旨ノ誤
百十五丁	十二行	者ハ旨ノ誤
七十一丁	四行	義ノ下務ヲ脱ス
七丁	十三行	之ノ下ヲ脱ス
七丁	九行	法律ニハ法律ハノ誤

正誤

百八十七丁以下百八十五葉マテニ記スル司法省丙第六號達ハ第七十
九丁ニ記スル第八節復權ノ前ニ在ル可キモノトス

二百八十一丁 九行 無期徒刑ハ有。期徒刑ノ誤
 二百九十五丁 六行 刑ハ罪ノ誤
 二百九十七丁 八行 トハハノ誤
 三百三丁 十行 共ニ下罪ヲノ二字ヲ脱ス
 三百四丁 一行 若主ハ苦主ノ誤
 三百七十丁 四行 所ナリハ所ナクノ誤
 三百八十丁 三行 己ニ難キハ已ミ難キノ誤
 三百八十七丁 四行 來スハ示スノ誤
 五百十二丁 三行 詐僞ハ僞証
 五百十八丁 十二行 百ノ下ニテ脱ス
 六百 丁 九行 科スルノトスハ科スルモノトスノ誤
 六百二十七丁 十行 タルノ下者ヲ脱ス
 六百三十七丁 二行 万劫ハ万劫
 六百三十九丁 七行 老疾ノ下者ヲ脱ス
 六百四十五丁 五行 治客ハ治客ノ誤
 六百五十二丁 六行 其罰ハ其罪ノ誤
 六百八十三丁 七行 者ヲハ罪ヲノ誤

明治十五年二月二日版權免許

同 年六月出版

定價金一圓二十五錢

註釋

小笠原美治

神田區神田五軒町
十八番地

出版人

同

人

發兌

弘令本社

神田區神田五軒町
十八番地

三府賣捌書肆

山中市兵衛 北島茂兵衛 稻田佐兵衛 丸屋善七 須原鐵二 水野慶次郎 東生龜次郎 江島喜兵衛 小林新兵衛 北澤伊八衛 石川治兵衛 青山清吉 吉川半七 稻田政吉 大倉孫兵衛 內田彌兵衛 出雲寺萬次郎

三府賣捌書肆

博上聞社 坂上梅治郎 柳川孝之助 山中藤兵衛 荒川藤右衛門 內藤傳右衛門 金林新造 小岡平助 吉岡喜兵衛 柳原善兵衛 前川源七郎 前川本太助 森田靜七 鹿谷卯八郎 小島真七 岡島真七 田中治兵衛

諸國賣

千葉市場町 陸中盛岡 豐前中津 伊勢津東町 同桑名舟町 同四日市 名古屋玉屋町 三州豐橋 岐阜米屋町 越後卷町 下總佐原 橫濱辨天通 長崎引地町 長崎袋町 信州長野 山形五日町 同 羽前鶴岡五日町 陸中盛岡肴町 兵庫湊町 越後長岡

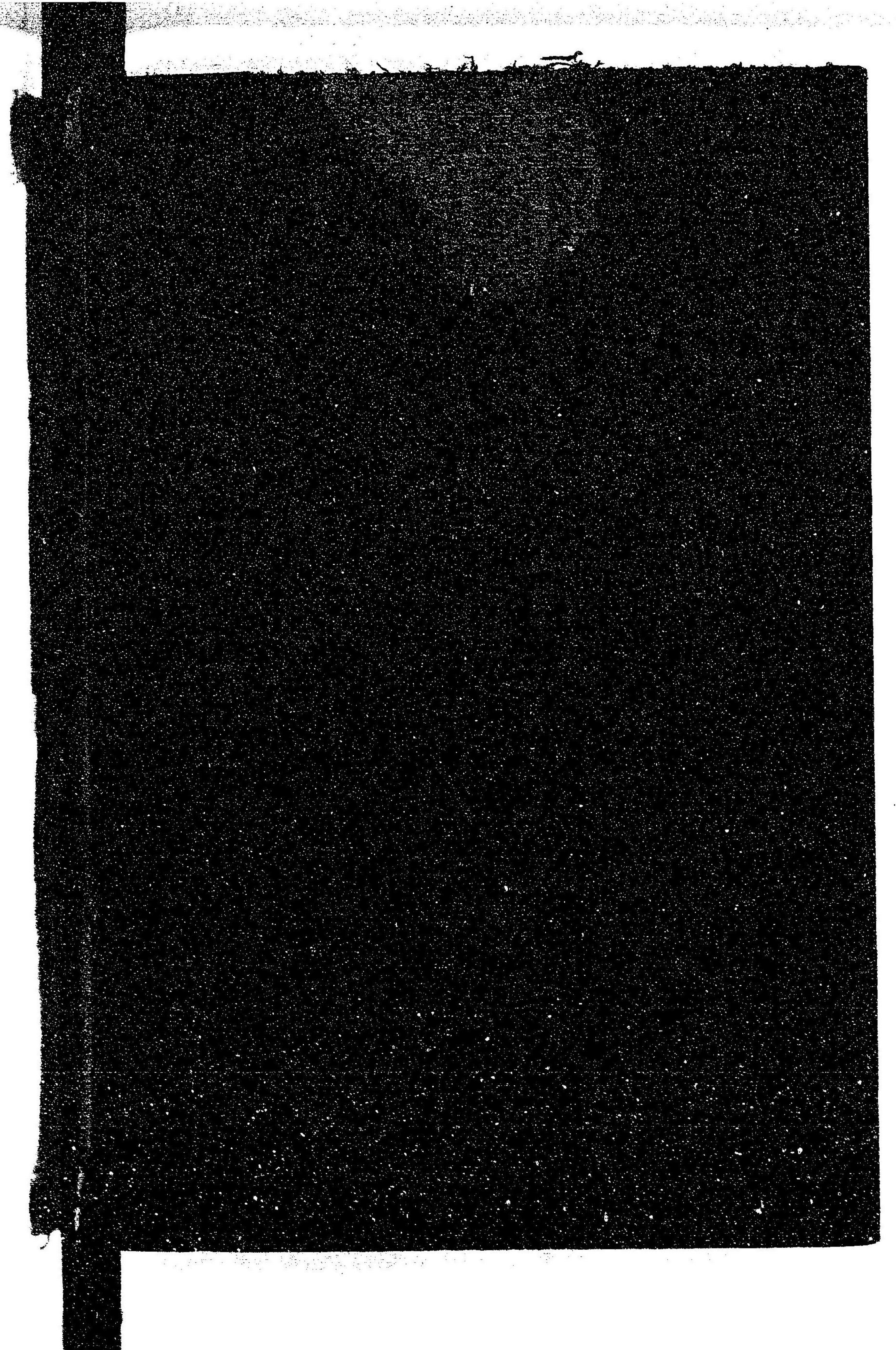
乙亥舍 澤田正助 野依曆三 淺野東介 大塚茂兵衛 伊藤善太郎 片野東四郎 高須源八 三浦源介 笛木又平 堀正平 丸屋善八 鶴野常藏 滿都家太平治 小椋屋喜太郎 八文宇屋 北國屋彌平治 小池藤治郎 佐藤庄兵衛 金港堂 松田周平

越後水原 同三條 同長岡 羽後久保田 上州高崎 武州川越 信州小諸 弘前土手町 陸前仙臺 羽後大曲 和歌山本町 大分京町 熊本新二丁目 福島五丁目 福岡橋口町 羽後橫手 羽前米澤 美濃大垣 加州金澤 信州松本 會津若松

西村六平 樋口小左衛門 上田屋治平 本間金之助 菅間定治郎 小山九郎兵衛 野崎九兵衛 伊勢安右衛門 板屋五郎左衛門 平井文助 山川正三郎 長崎次郎 齋藤彦太郎 山崎登 渡邊八右衛門 素月晨平 岡安慶介 近八郎右衛門 高美甚左衛門 田中善平

肆	書	弘
陸前石ノ卷 靜岡吳服町 越前福井 同武生 江州大津 但馬豐岡 淡路須本 播州姫路 岡山紙屋町 雲州松江本町 同天神町 越後長岡 同高田馬出町 同吳服町 羽前山形十日町 函館 泉州堺神明町 備後三次 伊勢龜山 常州水戸 同江戸崎	三陸屋利兵衛 三浦定吉 酒井安兵衛 黒田善司 澤宗治郎 由利安助 福浦文造 山野長平 世羅田益太郎 園山喜三右衛門 川岡清介 大橋新太郎 小方長吉 本田勝太郎 荒井大治郎 魁文社 鈴木久三郎 森藤東作 渡邊東五郎 川又銀藏 和泉屋半兵衛	新潟東堀通 長州萩 越後高田 同 岩代二本松 岐阜太田町 下總八日市場 越後中條 下總松戸 徳島西新町 岡山上ノ町 同西大寺町 豫州松山湊町 廣島横町 越後高田 福岡箕子町 同 筑後久留米 野州栃木 磐城白川天神町 右ノ外官令全報賣捌書肆
林富吉 松原喜兵衛 清水庄平 室直三郎 榊屋彦輔 春陽舎 木内嘉兵衛 村山長太郎 根本勝之助 黒崎精二 細文南舎 弘文南舎 土肥與平 松村善健助 竹田善健助 古野書店 林野書店 赤司平次郎 叶屋儀右衛門 興村市右衛門		

29
84



29
84

M

035889-000-2

29-84

刑法註釈

小笠原 美治 / 著

M15

BBP-0477

